

— 意見交換 —

○公益財団法人図書館振興財団教育支援室長

片岡則夫氏

大阪市子ども読書活動推進計画の推進の素案を見て、コメントをさせていただく。大きく2つの柱がある。全国学力・学習状況調査は大規模なデータであり、うまく分析すると、大阪市の現状がもう少し明らかになるのでは。また、学校図書館の統計的分析について提案させていただく。

1) 全国学力・学習状況調査には、1日当たりの読書時間について問いがある。大阪市は、全国平均のみとの比較を行っているが、経年変化や別の政令指定都市との比較も調べてみるとわかると思う。大阪市の現状は少々厳しいと感じている。こういった事実を理解しておくべき。

「新聞を読んでいますか」という問いもある。新聞やノンフィクションを読んでいる子どもほどPISA調査では読解力が高いという傾向がでていいる。読書推進とは少しずれるかもしれないが、留意しておいてもよいのでは。

総合的な学習の時間に取り組んでいるかの問いもある。大阪市と比べると全国は倍程度取り組んでいると回答している。学校図書館を活用して調べ学習をするということは、この差も見つめていた方がよいのでは。市会議事録を拝見すると、調べ学習、学校図書館を使っの授業改善といった議論もあるようだ。総合的な時間で自分でテーマを立てて勉強すればするほど国語も数学も成績が上がる傾向にあるということが調査で明らかになってきている。

2) 学校図書館の統計について。開館回数の統計を次回以降は調査しないというお話だが、確かに現状の調査の仕方ではあまり意味がないと感じている。予算にかかわることだが、学校司書を配置し、資料を購入し、授業で学校図書館を活用することが理想的だと考えている。読書環境の充実であれば、まずは人、次に本。この部分に予算をかけるといった目標だてができればよいと思う。

基礎的統計いろいろあるが、子ども一人当たりの蔵書

冊数、一校ごとの新刊受け入れ冊数、貸出冊数等、電算化されていれば容易にとれる。基礎的なデータがオープンになると学校図書館の現況が見えやすくなる。学校司書がいれば統計データは作れると思う。こういったデータを集めて市民に公開できるとよいと思う。

○神戸常盤大学教授 中西利恵氏

先行研究を調べておられると思うが、例えば、幼稚園・保育所・認定保育園が1年間で本を購入する予算は年間5万円ぐらいしかない園が50~60%。蔵書数が少ない施設は近隣の公共図書館を利用する。第4次計画の取組目標にある貸出冊数に関連してくるが、限られた予算の中、公立図書館は施設・学校をどれだけ支援できるのか。コロナ禍で団体利用が低下しているのではないか。貸出数をいかに充実させるか等、具体的な取組事項を検討していただきたい。また、団体貸出を行う場合よくあがる課題として貸出希望図書の重複をどうするのか、コロナ対策での消毒等人手不足をどうするか、どう連携するのか、といった課題がすでにあるので、こういった具体的な課題を注視していただきたい。

令和3年度の学力・学習状況調査において、家庭の蔵書数についての質問があった。家庭によってとても差がある。30冊未満の家庭も多い。環境が乏しい家庭に対して公的な施設が果たす役割は大きい。

現在のコロナ禍の状況でできることをするということがだが、令和3年度の報告にあるコロナ禍の学校図書館利用をどうするか等現場からの詳細な報告「コロナ禍における大阪市小・中学校の学校図書館の取組みについて」が掲載されているので、これがヒントになると思う。また、資料「各区子どもの読書活動推進連絡会のまとめ」に「読み聞かせ等、読書推進の現場で」の項にあるが、他市でも地域の連携について見直されている状況。どう連携をしていくかが非常に重要。障がいをもつ人や日本語を母語にしない人たちへの支援をコロナ禍で難しい面もあるが、今後も継続していただければ。今までしていた取組みがどれだけできるの

か、さらに現在のコロナ禍で、現場で試行錯誤しているものを、今後の計画にどう取り込むのかを検討していただけたらと思う。

○大阪市PTA協議会広報情報推進委員長 有富恵子氏

小学校のうちは読書の機会があるが、中学校になるとあまり利用していると聞かない。中学生の授業の中での図書館利用を促していただければと思った。

質問：以前、図書ボランティア講座は7回実施されていたが、最近の受講者は実質半減した回数で入会されています。もう少し講座で活動について学んでいただけると、スムーズに活動していただけるのではと感じることがあります。

事務局：講座の回数は予算の関係上減らした経緯があると聞いています。内容的にはこれまでの講座内容も補うような形で実施していただいていると認識していますが、今後の講座実施について留意したいと思います。ステップアップ講座は新しく入った方も受講していただける講座ですので、折にふれていろんな講座を受講して活動につなげていただければと思います。

質問：本日初めてこの資料を見て消化できるものではないため、会議の前に資料を拝見したい。

事務局：第3次素案の時は事前に資料をお送りさせていただいていました。次回以降についてはできるだけ事前に資料をお送りするようにしたいと思います。

事務局：第4次素案について、ご意見を9月22日（水曜日）までにメールまたはFAXでお送りください。11月目途でパブリックコメントの実施を予定しており、最終成案の策定は令和3年度内を予定しています。なお本日お渡しした素案については、パブリックコメントの段階で変更されますので、ご承知おきください。

座長：以上をもちまして、「令和3年度大阪市子どもの読書活動推進連絡会」の議事は全て終了しました。

（会議後に書面でいただいたご意見）

○大阪市生涯学習推進員協議会会長 宮川榮子氏
近頃はアニメ、ゲームと低学年から興味を持ち、ゲーム時間が社会問題になっている。読書はまず保護者がどれだけ本に親しんでいるか、など家庭環境が大切だと思われる。

○大阪市生涯学習推進員協議会副会長 重本由見子氏

第3次計画を振り返って、コロナ禍の中、学校図書館支援・読書活動支援ボランティアの活動もままならない状況でのもどかしさに想いを馳せた。同じボランティアに携わってる者として、新しい生活様式の中で工夫しながらの活動を頑張っていたきたいと思う。新計画について、ステイホームの今、家庭内での親の在り方について、今一度考えさせられた。

リモート授業実施になった時には短いエッセイなどの音読を取り入れてはどうか。また「公民連携による推進」「障がいのある子ども等への環境づくり」「多言語、多文化への活動」など推進していく施策も大切だ。「こども本の森中之島」のPRをもっとしてほしい。

○区代表ご意見（要旨）

- ・ボランティアグループと活動先の一目でわかる表などを作り、良いマッチングをしてほしい。
- ・「家庭での読み聞かせに親が疲弊している」どうアドバイスしたらいいか。
- ・子どもの読書離れは、親の読書離れという家庭環境も大きな原因の一つであるかと思う。「活字の無い家庭に活字を取り戻す」施策も並行して立案が必要。
- ・図書館で友だちと一緒に楽しく本を読めるスペースがあれば。
- ・図書館では、どんな本を選べばよいかを直接相談に乗ってもらえるということをもっと知ってもらえたら。
- ・こども本の森中之島の利用状況を知りたい。学校からの見学などの連携は行うべき。
- ・なぜ読書をしないのか、子どもたちに個別アンケートを取ってほしい。
- ・一人一台端末で図書館ホームページを見たら、ゲーム感覚で図書館に親しんでもらえるのでは。